

～私がフラメンコ教室を始めた経緯と、 これからも続けていこうと思う理由～

*長いですが、よろしければお読みください

私がフラメンコと出会ったのは、1988年に大学を卒業して不動産会社に就職した年でした。通勤電車の中から見えたフラメンコ教室の看板に興味をひかれ、何気なく通い始めたのですが、元々踊ることが大好きでしたので、すぐに夢中になりました。

その頃、完全なる男社会だった会社の在り方に不満を募らせていた時でしたので(まだ就職1年目だというのに生意気でしたね)、会社を辞めてフラメンコを習いに行こう！と思ってしまいました。

大学時代、第二外国語で学んでいたスペイン語をもっと使えるようになりたくてスペインに短期留学したのがとても楽しかったので、「もう一度スペインに行きたい」という気持ちと「会社を辞めたい」という気持ちがフラメンコによって繋がってしまったのです。

思い立ったらすぐ行動したくなる性格ゆえ、社会人2年目になって間もない1989年8月に退職、10月にはスペインに旅立っていました。

一応周りの人達には「スペイン語とフラメンコを学んでくる」と言っておりましたが、当初はただ会社を辞める大義名分でしかなかったと思います。もちろん本場でフラメンコを学びたいという気持ちはありましたが、始めてたった一年の私はフラメンコのことなど何もわかっていない状態でしたので、プロになる気などさらさらありませんでしたし、ただ異国の地で楽しく過ごしたかっただけなのです。

実際スペインでの留学生活は楽しかったです。まあ困難なこともそれなりにありましたが、毎日フラメンコのレッスンを受けることができ、スペイン人の大学生とルームシェアをして色々なことを教わりながらスペインの文化や生活に触れ、今まで生きてきた中で一番自由気ままな日々でした。しかし楽しい時間はあっという間に過ぎ、貯金も底をついたので1990年の7月には泣く泣く帰国しました。

さて、留学したからにはそれを活かした仕事に就かないと体裁が悪いと考え、それからはスペイン語を使える仕事を探し、フラメンコは趣味の習い事として続けながら転職を繰り返しました。

南米専門の旅行会社、スペイン人によるフラメンコショーを開催するレストランを経て、最終的にはベネズエラの国営企業の日本支店に就職し、ベネズエラ人支店長の秘書という職を手に入れました。ここで3年間毎日ベネズエラ人と一緒に仕事をしたおかげで、スペイン語を人に教えられる語学力を身に付けることができました。

フラメンコの方も、有名な教室で次の発表会には準舞踊団メンバーとして出演しないと言われる位頑張っていたのですが、そんな矢先に妊娠したので未練たっぷりな状態で教室を辞めることになりました。

それから2年おきに3人の子を立て続けに出産しましたのでフラメンコを再開する余裕は全くありませんでした。しかし準舞踊団に入りたかったという未練がずっと脳裏にこびりついており、何とかフラメンコを再開したくて2002年に自分の子とその友だちやお母さんを集めて区民館でサークルを始めました。

そのサークルでいただいたレッスン料でまたフラメンコを習いに行けるようになり(夫の給料からレッスン料を払ってもらって習うのは主義に反すると思っていたのです)、その後ご縁あって2005年より北区の子ども支援団体「でんでん」の運営委員として「でんでん Room 2(今のカルチャースペースμ)」を共同運営しながらフラメンコサークルを開きました。

この頃はまだプロではなく、生徒として師匠の元に通いながらサークルの講師を務めておりましたが、舞台経験を積みながら学んでいくうちに徐々にプロの先輩方達と肩を並べて出演させていただけるようになり、西日暮里の「アルハムブラ」や新宿の「エルフラメンコ」などに出演する他、自分自身で公演やチャリティライブなどの主催も行うようになりました。

共同運営者としては、法学部で学んだ法律や契約についての知識と、OL時代に学ばせてもらった経理の知識や経験により、運営メンバーの信頼を得ていきました。そして2008年に「でんでん」がNPO法人化するという事になった時、「『でんでんRoom 2』は切り離して譲るから一人でやってみない？」というお話をいただき、「カルチャースペースμ」として独立開業するに至りました。それから今に至るまで、個人事業でフラメンコ教室とレンタルスペースを営んでおります。

このように書くとなんだか順風満帆で華々しい人生のようですが、困難、迷い、不安、トラブルは日常茶飯事で、安定した人生とは言い難い毎日です。

それでも辞めずに頑張っているのは、どんな困難に見舞われてもフラメンコやフラメンコを通じて出会った先輩や仲間や生徒さん達にたくさん救われてきたからです。

うちの娘は3人のうち2人が中学時代不登校になり、約5年間親子共々辛い日々でしたが、どんなに悲しい時でも、スタジオに来て生徒さん達と踊ると心身共にスッキリし、一時的にでも笑顔になることができ、心が軽くなりました。

なので生徒さん達にとっても私やこのスタジオが癒やしの場になるといいと思っており、サークル時代より一貫して「老若男女どんな方でも楽しめるフラメンコ教室」「お一人お一人の人生に彩を添える場」という理念を掲げてやってきました。

もちろんフラメンコをちゃんと踊れるようになるための指導はしておりますし、華やかな舞台でライトを浴びて発表する場も設けていますが、踊りが上手くなることが第一目的ではないのです。

身体を動かすことで心がスッキリしたり身体の調子が良くなったり、そして私や仲間とワイワイ交流したり、時には悩みを共有したりして、楽しい時間が過ごせることが大切だと思っています。

そうやって、「もしフラメンコが踊れなくなってもこの仲間達とずっと付き合っていきたい」と互いに思える関係を築いている教室なのです。

2011年に起こった東日本大震災の際、日本中が自粛ムードの中で「たくさんの方が苦しんでいる中、私はこのような趣味の教室を続けていいのだろうか？」と悩みました。しかし、悲しんでばかりでは心も身体も弱ってしまいます。素敵な音楽を楽しみ、身体を動かしてスッキリしたら、たくさん食べられる、元気に働ける、明るく子育てができる、あるいは笑って過ごせるようになると思いました。

それは、間接的に色々な人の役に立っていることなのだと思います。それで気持ちを切り替え、「そのようなスタンスで教室をやっていきます！」と発信したところ、皆さん賛同してくださり、生徒さん達にも喜んでいただきました。

それは2020年から現在も続くコロナ禍でも同様です。

当教室は緊急事態宣言中に休業を余儀なくされましたが、その間、皆さんとオンラインや動画配信でつながり続け、互いに励まし合いました。スタジオは、再開した際に安心してレッスンに来ていただけるよう様々な感染防止対策を講じました。

そうして緊急事態宣言が明けてレッスンを再開した際には、多くの生徒さん達が嬉しそうに戻ってきてくださり、「レッスンを再開してくれてありがとうございます！」と仰ってくださいましたのです。私の方こそ「戻って来てくださりありがとうございます！」という気持ちでしたし、本当に嬉しかったです。

それからは、より一層皆さんと楽しむことに力を入れています。リース作りの会や映画の上映会など、フラメンコに関係のないイベントも行い、楽しんでいます。

さて、私は2023年2月に57歳になります。生徒さん達もほとんど50歳以上になりました。だんだん、膝や腰が痛い、腕が上がらないなどの不調を抱える人が増えてきました。

なので今は「皆さんが健康になるためのフラメンコ教室」を目指して色々取り組んでいます。

私は今までずっとフラメンコを学び、探求してきたので、このフラメンコを通じて私
が人の役に立てることを考えていきたいのです。

今まではヒールの高いフラメンコシューズを履いて足を踏み鳴らしたり回転をしたりと、割と難しい振り付けを教えるクラスしかありませんでしたが、これからはもっと年上の方がいらしても楽しんでいただけるフラメンコもやっていきたいと思っています。

フラメンコの良いところは、一生楽しめるところです。皆さん激しいというイメージを持たれると思うのですが、激しくないフラメンコもあるのです。

フラメンコシューズを履かなくても踊れるフラメンコ、テンポがゆっくりで簡単な動きでできるフラメンコ、東洋医学の考えを取り入れ、気の流れを促し健康寿命を延ばすことを目的としたフラメンコをお教えしていきたいと考えています。

そうして、本当の意味で「老若男女どんな方でも楽しめるフラメンコ教室」になるよう、これからも精進を重ね、努力していきたいと思っています。

最後までお読みくださり、ありがとうございました。